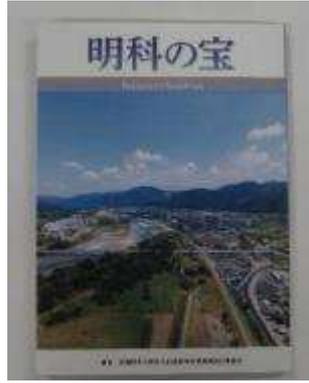


【活動実績】

1 冊子『明科の宝』の刊行 全180頁 2,500部印刷

(1) 冊子の印刷



(2) 現地調査のようす

ア 豊科郷土博物館友の会による現地調査

(令和元年5月25日

明科中川手明科区 参加者8名)

- ・江戸時代に描かれた旧明科村及び潮村の絵図を手にしながら、明科東川手潮区と中川手明科区を歩いた。



イ 豊科郷土博物館友の会による現地調査

(令和元年6月22日

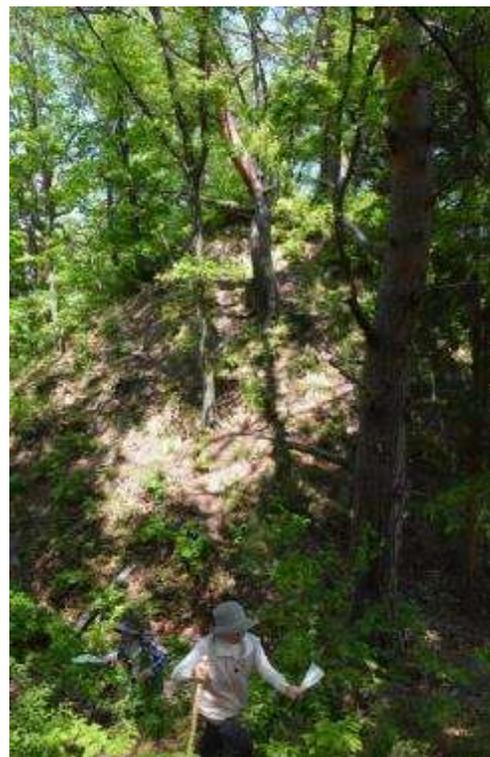
明科中川手塔の原 参加者8名)

- ・江戸時代に描かれた塔原村の絵図を手にしながら、明科中川手・塔の原地区を歩いた。

ウ 『明科の宝』執筆者らによる城跡の現地調査

(令和元年5月15日

明科中川手・塔原城跡 調査者3名)



エ 『明科の宝』執筆者らによる断層の現地調査
(令和元年 12 月 22 日
明科七貴上押野区・白崖 調査者 2 名)



2 講座の開催

(1) 明科公民館講座 (令和元年 11 月 26 日 参加者 59 名)

演題：「潮神明宮『日岐盛直神田寄進状』を読む」

講師：逸見 大悟

(実行委員会事務局次長・

安曇野市教育委員会文化課博物館係)

内容

- ・明科東川手の潮神明宮に伝わる「日岐盛直神田寄進状」(安曇野市有形文化財)について、特に三島暦との関係から位置づけを考察し、戦国時代の明科地域を学ぶ講座とした。

参加者の反応等

- ・明科地域だけでなく、日岐氏の領地となっていた生坂村からも参加者があった。
- ・「日岐盛直神田寄進状」の発給年月日と三島暦との関係を明らかにした内容が、好評であった。
- ・戦国武将が神社に出した寄進状だが、暦という新たな視点からのアプローチが新鮮であったという感想をいただいた。



(2) 豊科郷土博物館でのギャラリートーク (令和 2 年 2 月 22 日 参加者約 20 名)

講師：横山 幸子

(安曇野市教育委員会文化課文化財保護係)

内容

- ・明科中川手吐中^{とっちゅう}で発見されたオオツノジカの角の化石の実物を見ながらギャラリートークを実施した。オオツノジカの大きさや生息環境にも触れた。

参加者の反応等

- ・普段、豊科郷土博物館で取り扱わない化石という分野であり、新鮮な印象を受ける参加者が多かった。
- ・安曇野市では人の痕跡を示す遺物がまだ発見されていない旧石器時代に生きた動物の化石と聞いて、参加者は驚いた様子であった。実際の化石を角度や長さまで詳しく観察し、またニホンジカと比較して大きな角を持つオオツノジカの姿を、参加者がリアルに想像できる内容であった。



(3) 明科公民館講座 (令和2年2月26日 参加者19名)

演題:「学校メガネから見えるもの」

講師:平沢 重人

(実行委員会副実行委員長・安曇野市文書館長)

内容

- ・安曇野市文書館が収集した学校資料のうち、明科地域の分が900点から見えてきた近現代史について講座を行った。学校日誌には国内や世界の動きも記されている。これにたいして、明科の学校や地元の人々は何を考え、どのように動いたのかを明らかにする講座であった。



参加者の反応等

- ・新型コロナウイルスの蔓延により参加者は少なかったものの、好評であった。
- ・学校資料に載せられた台風災害(伊勢湾台風)に関わる質問等が出されるなど、参加者が深い興味関心をもって聞いていた。
- ・昭和20年度の学事報告に、戦時下の子どもたちが一生懸命取り組んでいたと村長が褒めていたという記事があった。苦しい時代の子供たちに、村の代表の方が目を向けてくれていて、ほっとしたという感想が寄せられた。

明科いいまちサロンでは、2月26日に安曇野市文書館の平沢館長をお招きし、歴史探訪講座『学校メガネから見えるもの』を開催しました。以下に聴講した感想を掲載いたします。

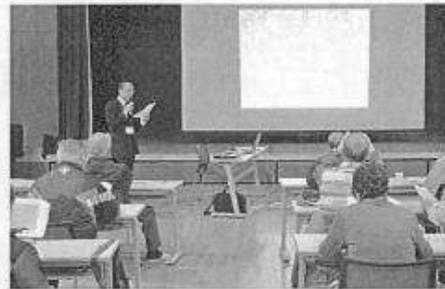
学校メガネから見えるものを聴いて

昨年10月に堀金総合支所の隣に開館した安曇野市文書館には、市内の学校17校に保管されていた5000点以上の学校資料が収蔵されています。そのうち明科分は約400点で、学校日誌や学籍簿、成績表までもがあるそうです。今回は平沢重人館長から、東川手尋常高等小学校など古い資料から見えてくる日本や世界の様子などについてお話いただきました。

日清・日露戦争当時の学校は地域を巻き込んで天皇即位記念や皇太子誕生記念とか戦勝記念など村民みんなで祝うために運動会が良く利用されたようです。そして第一次世界大戦の大きに国威発揚した喜びの時代を経て第二次世界大戦に至り、学校は国策を反映する現場となった様子が良く分かります。戦後は一変して民主主義が唱えられるものの、人権感覚までは古い体質を拭い去ることができず、弱者に対する差別的な用語が使われている文書が文部省から出されている例など、学校資料はまさに社会の写し鏡であり、また学校をメガネにして社会を見たとき様々なことがリアリティをもって感じることができると感じました。

興味深かったのは、各家庭に柿の木が多いのは何故かという理由が判明した記録です。明治50年を記念して各家に柿の木が配られたのは良いのですが、7年後に実った柿を収穫させて学校の基本財産としたというのです。なんともほのぼのとした時代を感じさせる話です。

一度は文書館を訪れて、そんな記録を探してみるのも面白いかもしれません。



七貴国民/青年学校 昭和20年度学事報告 附記
(作成:昭和21年3月)
第二次世界大戦の影響が色濃く残る文書である